新見公立大学（NiU)学生フリーペーパー

なるたき
NARUTAKI

新見公立大学地域共生推進センター

～第８号を制作するにあたって～
フリーペーパー「なるたき」は、新見公立大学の「いいな！」「すごいな！」「伝えたい！」を学生目線で発信し、大学と地域をつなぐ役割を担っていきます。
第８号は、**「新見を見る・味わう」**をテーマにお届けします。

秘境 鳴滝の魅力発見！

鳴滝は、新見市菅生にあるとても大きな滝です。
このフリーペーパー「なるたき」の名前の由来にもなった鳴滝の魅力についてご紹介します！
今回記事を作成するにあたって、私たちは渡辺英二さんからお話を伺い、鳴滝と七曲がりの魅力を発見しました。

雄滝

アクセス

- 新見駅から車で約30分
- 別所アウトドアスポーツセンターから
レンタサイクルで約15分
- 中国自動車道　新見ICから車で約25分

鳴滝は、雄滝(上写真)と雌滝(次ページ下写真)からなる落差約30mの非常に大きな滝です。ゴーゴーという滝の音が聞こえることから総称して「鳴滝」と呼ばれているという説もあるそうです。鳴滝は、渓流がとてもきれいで自然の魅力を感じることができます。

2003年にNHKで放送された大河ドラマ「武蔵」のロケ地としても使用されています！

地元：別所の渡辺英二さん

鳴滝の渓流

「牛仙の滝」伝説

鳴滝には、「牛仙の滝」という伝説があります。
楪城が落城した後、鳴滝の上流にあった興徳寺にかくまわれていた落ち武者がいました。その落ち武者が赤い牛を連れて鳴滝を訪れていたところを村人が見つけ、その風貌が仙人のようであったことからこの伝説ができたそうです。

七曲がり

七曲がりは、鳴滝のすぐ隣の高梁川源流域の山林にある石積みのつづら折り林道です。鳴滝の隣の高低差約30mの難所を超えるために造られました。七曲がりのある用郷山の頂上には広大な国有林があります。その広さはなんと東京ドーム約280個分！ 七曲がりは、国有林から木炭や薪、線路の下に敷く枕木として使用する木材を搬出しやすくするために造られました。この七曲がりの建設によって新見の林業が発展しました。

また、明治45年から当時のまま崩れることなく残っていることから、令和元年に土木学会選奨土木遺産に認定されました。

この石積みは七曲がり上方にある大きな岩盤を砕き、そこから出てきた大量の岩を利用して完成させたそうです！

七曲がり　今と昔

今

現在の様子　令和４年

昔

明治４５年　写真提供：渡辺英二さん

佐賀政光碑

七曲りの建設を支えたのは佐賀政光（現大分県の臼杵藩士）という人物です。佐賀政光は建設施工監督者として七曲がりの建設に尽力してきましたが、完成前に病気を患い、そのまま亡くなってしまいました。その功績をたたえ、「佐賀政光碑」が建てられました。

雌滝

文：播磨花音、山家優花、笹倉彩希

大原観光果樹園

500ヘクタールの土地に800本の果樹園
全国各地からのお客さんに加え、外国の方も訪れる

住所：岡山県新見市草間１２０４
連絡先：0867-74-3202

SAメモ

SA１部門が草間地区で活動する際には、大原観光果樹園の果物が使われることも。以前行われた草間桃祭りではももを使って瓶ケーキを作りました。

今回取材に協力してくださった

大原観光果樹園
代表取締役
うえすぎ　かずお
上杉　和雄さん

りんご狩り

体験時期
9月上旬～１１月下旬

私たちもりんご狩りさせていただきました！
甘くてみずみずしいジョナゴールドを
お腹いっぱい食べることができました！
たくさんのりんごから自分のお気に入りを見つけて食べる事ができるりんご狩りはとても楽しかったです♪
撮影時期：１０月末

気になることを質問してみたのコーナー！！

果樹園について教えてください！

大原観光果樹園は昭和５８年に、直売所は平成６年に始めたよ。
井倉洞と満奇洞に行く観光客の目に留まる中間地点の山を開墾したんだ。

大原観光果樹園ならではのことは？

岡山県内では涼しい地域の、ここと和気町佐伯の二か所しかりんごは栽培されてないんだよね。全国的にりんご狩りを体験できる農園は多いけど、当園では岡山の名産であるもも狩りも体験できるよ。

お客さんからはどんな声がありますか？

もも狩りやりんご狩りを体験したお客さんから、「美味しかった」や「楽しかった」と言ってもらえたのは嬉しかったな。
ふるさと納税の返礼品もやっていて、再度頼んでくれる人もいるよ。

もも狩り

体験時期
７月上旬～８月中旬

なし狩り

体験時期
9月上旬～１０月上旬

文：喜井琉依・久世樹沙・難波朱華

電子版なるたき はじめました

今までに発行してきた１号から８号までを新見公立大学ホームページにて掲載しております！本誌の内容に加えて、取材時の裏話などもご覧になれます。今後発行するなるたきも随時掲載していきますので、ぜひご覧ください！！

編集後記

フリーペーパー「なるたき」第8号を読んで下さりありがとうございます。今回は、「新見を見る・味わう」をテーマに、鳴滝の紹介、SAの活動で以前お世話になった草間地域にある大原観光果樹園、夏祭り、ハロウィンマルシェを取り上げました。

「なるたき」の制作に協力してくださった方々や、読者の皆様の応援に支えられて「なるたき」は発行することができています。これからも「なるたき」が地域や大学の情報を発信し、大学と地域との架け橋となれるように心を込めて作成していきます。（広報部門SA）

あなたの感想 お待ちしています！

「なるたき」のさらなる発展のために皆様のご意見・ご要望をお聞かせください♪
Instagramのダイレクトメッセージ、
または右の問い合わせ先で
お気軽にご意見をお寄せください！

表紙（なるたき）タイトルデザイン　小藤慶喜氏

SAの情報をお届け！
フォローお願いします♪

@NARUTAKI_NIIMI

←電子版なるたきは
こちらから♪

お問い合わせ
地域共生推進センター(新見公立大学内)
Tel：0867-72-0634
Email：chiikikyousei@niimi-u.ac.jp

地域共生推進センター

SAしんぶん

地域共生推進センターSA（スチューデント・アシスタント）とは、共生社会の構築を目指して設立された同センターに所属して活動している学生スタッフのことです。地域行事への参加や地域交流活動の企画・広報活動などを行っています。
今回は、その中で2つの活動を紹介します！

【夏祭り】

2023年8月12日に、新見駅西サテライトでまちなか版ミニ学祭～夏祭り～が開催されました。来場者数200人を想定していたところ、当日の来場者は想定の倍以上の520人を数えました。このイベントは多世代交流の場の提供、新見駅周辺の賑わいの創出を目的として開催されました。

会場には、縁日ブースやフードコート、展示など様々なブースがあり、学生サークルやおかみさん会、市内の高校生などの団体が出店しました。的あて、ヨーヨー釣りなどで遊んだり、夏らしい冷やしうどん、かき氷を食べたりできました。

縁日ブースではお皿回しなどの昔からの遊びが体験でき、家族連れをはじめとして多くの来場者が世代を超えて楽しんでいる様子が見られました。子ども達、その家族、昔遊んでいた高齢者の方々と大学生が教え合い、一緒に遊んでいました。

また、ステージでは新見高校吹奏楽部、新見ウインドアンサンブルなど4つの団体が出演しました。パフォーマンス中に観客の方が演奏に合わせて手拍子するなど、盛り上がっていました。

夏祭りを企画したSAは「企画の段階では、人が集まるか不安だったが、当日はたくさんの人で賑わい来場者の笑顔が見られたので良かった。」と話していました。また、「今後も駅西サテライトを普段から利用してもらえるよう方法を考えていきたい。地域団体の方々と連携して遠方からでも足を運んでもらえるようなイベントを企画したい。」と今後の駅西サテライトの展望も話していました。

これから駅西サテライトで、どのようなイベントが行われるか楽しみですね。皆さんのアイデアで駅西サテライトを活用してください。

【ハロウィンマルシェ】

2023年10月22日に、ハロウィンマルシェが新見駅前高梁川親水公園（河川敷）で開催されました。今回のイベントは、新見駅前の活性化と新見駅周辺の魅力調査を目的として、にいまちマルシェ学生実行委員会が主催しました。事前の想定人数を大きく上回る約300人の来場者が訪れ、その多くは未就学児のいる家族連れで、市外から訪れた方もいました。新見駅側の岸に飲食ブース、中洲にワークショップブースと、河川敷の形を活かしてブースが設置されていました。

飲食ブースにはSA学生が考案した草間のそば粉クッキーと飲料の販売に加え、市内のパン屋さん（「こめ工房」、「松陰」）も並びました。パンを買うために学生を中心とした若い世代も訪れていたのが印象的でした。

ワークショップブースでは、マスキングテープを使ったハロウィンカード作りとモビール作りが体験できました。多くの子どもたちでにぎわい、子ども達だけでなく、交流している学生や見守っている親御さんも笑顔でした。

フォトスポットで仮装した写真を撮っている人達も多く、来場した人みんなの思い出に残るイベントになったのではないでしょうか。

にいまちマルシェ実行委員会の学生らは「パン屋さんや新見まちづくりカンパニーの皆さんなど、地域の大人の方と力を合わせてつくりあげたイベントを皆さんに楽しんでいただけて良かった。」「学生だけで企画をしている時と違い、外部との連絡・調整や予定された日程に遅れないように準備することが大変だった。」と話していました。

来場者からは「河川敷の良さに気づけた」、「自分も河川敷でこういったイベントをやりたい・また参加したい」といった感想が寄せられたそうで、主催学生は「普段河川敷を利用しない人にも魅力を発信することができたのではないか」と手ごたえがあったことを話してくれました。

文：森本莉央、浅海菜衣